高梁市議会だより
2026 2
ご意見はこちらまで■高梁市議会事務局 高梁市松原通2043 ☎0866-21-0277
発行 高梁市議会

3月の定例会スケジュール

3/4	水	本会議（議案の上程）
10	火	本会議（一般質問）
11	水	本会議（一般質問）
12	木	本会議（一般質問）
16	月	本会議（議案質疑）
17	火	委員会
18	水	委員会
19	木	（委員会予備日）
25	水	本会議（採決）

※3月定例会への請願・陳情の締め切りは2月24日(火)までです。
※日程は変更となる場合があります。正式な日程は決まり次第、ホームページでお知らせいたします。

政治家の寄付は禁止！有権者が求めることも禁止されています！

公職選挙法により、市議会議員が選挙区内でお中元やお歳暮、ご祝儀を出すことは禁止されています。市民から求めることも禁止です。

編集
議会広報公聴特別委員会
委員長 森 和之
副委員長 金尾 恭士
委員 川上 博司
委員 宮田 好夫
委員 藤岡 善行
委員 前野 洋行
委員 川上 雅美
委員 長田 伸彦

高梁市議会ホームページ
◀アクセスはこちらから

新 高梁人名録

江草安彦（えぐさ やすひこ）氏
（1926～2015）

「一人だけ幸せであるのではなく大勢の人と一緒に幸せになりなさい」安彦氏が岡山医科大学附属医学専門部（現在、岡山大学医学部）入学時に母から言われた言葉です。

安彦氏は1950年小児科医師となり、岡山県北の乳児健診を担当しました。そこで想像以上に厳しい現実を目の当たりにしました。障がい児は人目をはばかるように暗い部屋に押し込められている現実がありました。障がい児の痛ましい現実をなんとかしたいと安彦氏は日々考えていました。折しも川崎祐宣氏（旭川荘設立者）と出会い、互いの構想を語り合う中で旭川荘設立へ共に歩むこととなり、「旭川学園」「旭川療育園」「旭川乳児院」と三施設を次々に設立しました。安彦氏は「医療福祉」を提唱するようになります。「医療福祉」とは、医療と福祉が結びつき、一人の障がい者(児)に対して、チームとして「同じ目標」「同じ目的」を持って支援していくということです。

安彦氏の考えは全国的に広がっていきました。1990年頃から安彦氏の本籍地である川上町（当時）では福祉のまちづくり（望みの丘作業所・川上療護園・川上医療センター・ひだまり苑の開設）が行われていきました。安彦氏の理想を当時の佐藤呈次（ていじ）川上町長と共に実現する取り組みでした。また、今なお備中町平川地区で40年以上続く「平川家庭学校」は障がい者(児)が地域と一体となって活動する安彦氏の理想を実現したものです。安彦氏の人生は「大勢の人を幸せにした」人生でありました。

川上医療センター・ひだまり苑

人物写真・資料提供：旭川荘

今号の表紙

高梁市立成羽中学校

成羽中学校の探究学習は、「自分たちの町に貢献したい」という一貫した思いのもと、3年間で学びがつながるよう構成されています。3年生では「先人に学ぶ」を継続し、沖縄平和学習では広島との比較や戦争体験者の気持ちを考え、自分たちの行動を考察しました。

生徒たちは全学年で課題を「自分事」として捉え、最後までこだわりを持って取り組み、その成果を発表しました。

あとがき

この号が発行される2月後半頃には小さな春が感じられる気候となっていることでしょう。日本人は古来より四季に合わせた生活を営んでいますが、最近では時代の変遷とともに次第に廃（すた）れていっていると感じます。

私自身も季節の行事に参加し、次代に伝えなければと考えます。「冬来たりならば春遠からじ」人生になぞらえれば、苦しい時期を耐え抜けば幸せな時期が必ず来るという例えにも使われます。

市民の皆様が安心して生活ができますよう私たち議員も市民の皆様の声をお伺いし、市議会の場で反映させていかなければと考えています。

（金尾 恭士）